

イベントレポート

第5回 IPA 圧入工学セミナー

更新日 2012.7.20



開催日時： 2012年7月9日(月)13:30-17:15
場所： 高知県高知市
会場： サンピアセリーズ マリンホール
主催： IPA研究委員会
後援： 高知県工業会、高知県発明協会、高知県技術者協会、高知工科大学、高知大学、高知工業高等専門学校、株式会社高知新聞社、株式会社技研製作所

プログラム： 講演1「ケンブリッジ大学と技研製作所の共同研究成果」
ケンブリッジ大学 教授 マルコム・ボルトン (IPA会長)
株式会社技研製作所 新工法開発部 実証科学課リーダー 石原 行博 (IPA研究委員会委員)

講演2「上海の軟弱粘土における近接した地下埋設パイプラインに及ぼす圧入杭の圧搾効果」
同済大学 博士 タン・ヨン (第3回IPA研究助成賞受賞者)
同済大学 教授 パン・ファンルー (IPA副会長)

講演3「高知県における大規模災害への備え」
高知大学 教授 大年 邦雄

講演4「インプラント構造と適用事例」
株式会社技研製作所 新工法開発部 エンジニアリング課 リーダー 安岡 博之

総括 金沢大学 教授 松本 樹典
進行 IPA事務局 局長 奥村 忠彦

参加者数： 210名

7月9日(月)、第5回目となる圧入工学セミナーを高知県高知市のサンピアセリーズにて開催しました。セミナーには、国内外の研究者や技術者のほか、高知県、高知市などの自治体関係者を含め過去最大の210名が参加。東日本大震災以降、大規模災害から人命と財産を守る建設技術の確立が急がれるなか、実効ある防災・減災対策として地元高知での圧入技術の適用例が紹介されるなど、「高知を圧入のメッカにする」を具現した盛況なセミナーとなりました

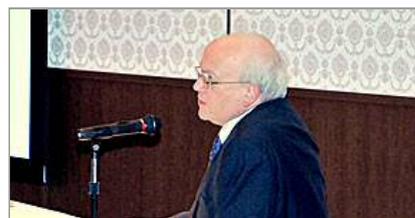
セミナーでは、北村名誉会長、尾崎正直高知県知事(代読:岩城孝章副知事)の挨拶に続き、四つの講演が行われました。

最初にボルトン会長、石原講師から、ケンブリッジ大学と技研製作所の18年に及ぶ圧入に関する共同研究の概要と研究成果、今後の研究テーマについての発表がありました。

次に、第3回IPA研究助成賞受賞者のタン博士から、受賞研究テーマである軟弱粘土地盤における地下埋設パイプラインへの圧入杭の影響について、数値解析手法を用い、杭径や杭とパイプラインの距離、パイプラインの深度などさまざまな条件下での解析結果が発表されました。(日本語抄訳:パン副会長)



北村名誉会長(技研製作所)によるセミナー開会挨拶



マルコム・ボルトン教授
(IPA会長、ケンブリッジ大学)

大年教授からは、来るべき南海トラフなどの巨大地震と大津波に備える防災・減災対策について、既存制度の枠を超えた発想の重要性や、圧入技術を用いて産学官協同で進めている高知県の堤防補強対策を例に挙げ、粘り強い構造物への転換の必要性が発表されました。

安岡講師からは、東日本大震災での土木構造物の津波被害状況の解説と、その対策となるインプラント構造の有効性について、耐波実証実験の映像を用いた説明や、国直轄事業で同構造が初採用となった仁ノ海岸堤防補強工事(高知市)の適用事例などの紹介がありました。

最後に、金沢大学の松本樹典教授が各講演内容と本セミナーの意義を総括し、セミナーは閉会となりました。

閉会後は、技研製作所との共同研究で来高したボルトン教授とケンブリッジ大生の歓迎会を兼ねた交流会が開催され、終始和やかな雰囲気の中、研究者、行政関係者、企業関係者ら産学官が一堂に会する絶好の交歓の場となりました。



石原行博氏(技研製作所)



タン・ヨン博士(同済大学)



バン・ファンルー教授(IPA理事、同済大学)



大年邦雄教授(高知大学)



安岡博之氏(技研製作所)



松本樹典教授(金沢大学)

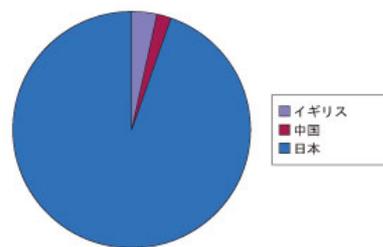


奥村忠彦事務局長による司会進行

セミナー参加者の内訳

【国別】

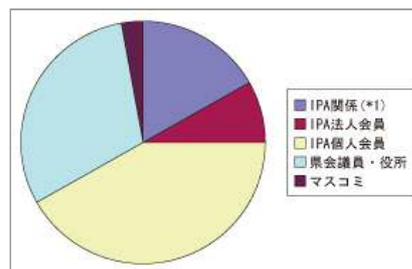
国名	参加者(人)	備考
イギリス	6	
中国	2	
日本	202	
合計	210	日本以外の合計8人



セミナー参加者グラフ【国別】

【所属別】

所属等	参加者(人)	備考
IPA関係	40	IPA役員・理事・事務局 6人、 大学・高専関係34人*1
IPA法人会員	13	
IPA個人会員	85	
県会議員・役所	68	
マスコミ	4	
合計	210	IPA会員138人 IPA非会員72人



セミナー参加者グラフ【所属別】

*1 ケンブリッジ大学6人(5人)、同済大学2人(0人)、東京大学4人(3人)、金沢大学5人(4人)、高知大学1人(0人)、高知工科大学4人(4人)、高知工業高等専門学校12人(11人)
カッコ内は学生